

葛西会長の原発問題に対する主張に抗議する！

私たち J R 東海労関西地区分会は、5月24日付け産経新聞における葛西会長の原発問題に対する主張を断じて認めるわけにはいかない。

産経新聞における葛西会長の主張は、「原子力を利用する以上、リスクを承知の上で、それを克服・制御する国民的な覚悟が必要である」「腹を据えてこれまで通り原子力を利用し続ける以外に日本の活路はない」「政府は稼働できる原発をすべて稼働させて電力の安定供給を堅持する方針を宣言し、政府の責任で速やかに稼働させるべきだ」などである。

東日本大震災によって引き起こされた福島第一原子力発電所の事故は、地元住民のみなさんをはじめ日本のみならず世界的にも放射能被害を発生させている。しかも、未だに福島第一原発事故は収束どころか深刻さを増すばかりである。

このような状況のなか、日本においては浜岡原発の全面停止や世界ではイタリアの国民投票結果など脱原発の流れが大きくなってきている。最近の世論調査においても、国内の52基の原発を廃炉にするとした人が82%にもなっている。

しかし。葛西会長は、脱原発の世論を無視し、原発の危険性を無視し、被災者のみなさんの切実な声も無視して、原発推進側に立った無責任極まりない主張をしている。

また、葛西会長は J R 東海会長として主張していることは、J R 東海会社を代表した主張であり、私たち社員を代表した主張となるのである。

よって、私たちは葛西会長の無責任な原発問題に対する主張は断じて認めることができない。ただちに葛西会長は原発問題に対する主張を撤回すべきである。

2011年6月28日

J R 東海労働組合新幹線関西地方本部
関西地区分会